



いのち支える



いのち支える自殺対策推進センター

ニュースレター 第56号 (2026.06.05)



いのち支える自殺対策推進センター (JSCP) のニュースレターにご登録いただき、ありがとうございます。
本号では、米国医学雑誌に公開された、高校の教育課程別に見る自殺の特徴に関する論文の概要や、諸外国のゲートキーパー養成研修の場などで活用されている尺度「教職員用Gatekeeper Behavior Scale (GBS)」日本語版の公開、自殺未遂者ケア研修「一般救急版」開催のお知らせ、自殺報道に関するコラム、職員インタビューを掲載しています。

※このメールは、本ニュースレターの配信を希望された方や、当団体の活動を通して、連絡先を頂戴した方に送信しています。今後メールの受信をご希望されない方は、お手数をおかけしますが、[こちら](#)から配信停止手続きをお願いいたします。

〈ニュースレター第56号トピックス〉

1. 【調査・研究】 高校教育課程別の自殺の実態に関する論文を公開
2. 【子ども・若者の自殺対策】 日本語版「教職員用Gatekeeper Behavior Scale」を公開
3. 【自殺未遂者支援】 自殺未遂者ケア研修「一般救急版」開催に関するお知らせ
4. 【記事公開】 自殺報道をどう伝えるか―「ネットメディアが守らないなら無意味」は本当か？
5. 【JSCP職員インタビュー】 自死遺族等支援室長／地域支援室長：菅沼 舞

1. 【調査・研究】 高校教育課程別の自殺の実態に関する論文を公開

JSCPの研究グループは、2026年5月27日に米国医学雑誌「JAMA Network Open」において、高校の教育課程別に見る自殺の特徴に関する論文「Suicides and High School Program Types in Japan」（「日本における自殺と高校の教育課程」）を公表しました。

日本の高校生の自殺は、2022年に過去最多（当時）の354人となり、その後も高い水準が続いています。本研究では、自殺統計データを基に、全日制高校と定時制・通信制高校の比較を通じて、自殺死亡率と自殺で亡くなった生徒の特徴を分析しました。

その結果、分析対象期間（2022～2024年）では、全日制高校と定時制・通信制高校の自殺死亡者数（自殺死亡率）はそれぞれ680人（7.8）、328人（32.5）と、定時制・通信制高校の自殺死亡率が統計的に有意に高く、特に2024年の定時制・通信制高校の女子生徒の自殺死亡率は、全日制高校に比べて約6倍と顕著な差となっていました。

また、定時制・通信制高校では、全日制高校に比べて「19歳以上」「精神科通院歴がある」「過去に自殺未遂の経験がある」生徒や、自殺の原因・動機が「健康問題」「その他」に該当する生徒の割合が有意に高いこともわかりました。さらに、こうした生徒個人の特徴による影響を統計的に調整した上でもなお、全日制高校に対する定時制・通信制高校の自殺者の割合は、年々増加傾向にあり、これは、教育課程間の自殺の実態の差が、自殺で亡くなった生徒個人の特徴や本研究で扱った自殺統計原票の項目（変数）だけでは十分に説明しきれない可能性を示しています。

本研究の結果は、各教育課程の特性を踏まえた資源配置や仕組みの構築に向け、更なる実態把握や検討の必要性を認識させるものといえます。

■詳細は[こちら](#)をご覧ください

■論文は[こちら](#)（JAMA Network Open内）に掲載されています

2. 【こども・若者の自殺対策】日本語版「教職員用Gatekeeper Behavior Scale」を公開

JSCPは2026年5月21日、日本語版「教職員用Gatekeeper Behavior Scale (GBS)」を公開しました。GBSは、諸外国のゲートキーパー養成研修の場などで活用されている尺度です。教職員がゲートキーパーとして期待される介入行動をどの程度実行しようとしているか（遂行意図）を測ることができ、自治体や学校における研修の効果測定や、研修前後の変化の把握、教職員自身の傾向把握などへの活用が期待されます。

本尺度は商用目的を除き、教育・研究・支援現場等において、出典を明記したうえで、事前の承諾申請なく無償でご利用いただけます。

また、本尺度は英語版原著者の承諾を得て翻訳したものであり、その信頼性・妥当性を検証した査読付き原著論文が、日本自殺予防学会の機関誌『自殺予防と危機介入』に採択されました（2026年5月20日発刊）。論文全文の閲覧を希望される方は、下記フォームよりお申し込みください。

■詳しくは[こちら](#)をご参照ください

■論文ダウンロード申請フォーム：<https://forms.office.com/r/bYFpndaegG>

3. 【自殺未遂者支援】自殺未遂者ケア研修「一般救急版」開催に関するお知らせ

自殺未遂者は、その後の自殺の危険性が高いことが知られています。そのため、一般救急医療や精神科救急医療、さらには地域医療における適切なケアを通じて、再度の自殺企図を防ぎ、社会復帰につなげていくことが求められます。

そのためJSCPでは、自殺未遂者に関わる多職種の方々を対象に、自殺未遂者ケアを体系的に学ぶ「自殺未遂者ケア研修」を開催しています。2026年（令和8年）度の「一般救急版」は、9月6日（日）に開催予定です。本研修は、救急医療に従事する医師、看護師、ソーシャルワーカー、救急救命士、保健師など、地域の救急医療に関わる皆様を主な対象としています。

内容は、自殺未遂患者への初期対応から、自殺リスクのアセスメント、個々の患者に応じたケースマネジメントに至るまで、日本臨床救急医学会が自殺対策の専門家とともに策定したガイドラインに基づき、体系的に学びます。さらに、モデル症例を用いた多職種参加型のワークショップを通して、実践的なケースマネジメントのスキルを身につけていただける構成です。

■詳しくは[こちら](#)をご参照ください

■また、募集開始に関するメール案内を希望される方は、[こちら](#)からご登録ください

4. 【記事公開】〈コラムVol.6〉自殺報道をどう伝えるか ——「ネットメディアが守らないなら無意味」は本当か？

自殺報道に関するコラムの第6回を公開しました。本コラムは、元新聞記者のJSCP広報官が、自殺対策の現場に移った「元・報じる側」の視点から、見たこと・考えたことを綴る連載です。

今回は、JSCPがメディア関係者向けに開催している「自殺報道のあり方を考える勉強会」でよくお寄せいただく、「マスメディアがいくら自殺報道ガイドラインに配慮しても、ネットメディアや週刊誌が守らなければ意味がないのではないか」という声について、考えました。

■記事は、[こちら](#)からお読みいただけます

5. 【JSCP職員インタビュー】自死遺族等支援室長／地域支援室長：菅沼 舞 「子どもたちに『世の中捨てたもんじゃない』と伝えたい」 —父を救えなかった絶望から、社会への信頼を取り戻した20年

菅沼舞は、高校生の時に父を自死で亡くし、父を救えなかった悔しさと罪悪感、無力感を抱えてきました。2006年に自殺対策基本法が成立したことを受け翌2007年に開催された「自死遺族支援全国キャラバン」の官民合同シンポジウムで、自死遺族としての体験を語ったのをきっかけに、自殺対策に関わるようになりました。あれから20年が経ち、JSCPの自死遺族等支援室長として本格的に自殺対策に携わるようになった今、思うことは一。当時を振り返り、今後の展望についても語りました。



〈プロフィール〉

菅沼 舞（すがぬま・まい）

福岡県出身。2004年、高校3年生の時に父を自死で亡くす。2007年、「自死遺族支援全国キャラバン」の官民合同シンポジウムに自死遺族として登壇。大学卒業後、民間企業で営業職として5年間勤務後、2014年からは一般財団法人「あしなが育英会」にて、親を亡くした大学生や留学生の生活面・心理面のサポートに携わる。2020年9月、JSCPに入職し自死遺族等支援室長を務め、2022年4月から地域支援室長も兼務。

（以下、記事からの抜粋）

—自殺対策に関わるきっかけは？

菅沼）きっかけは、高校3年生の時に父を自死で亡くしたことです。「人生が終わった」かのような絶望、将来への不安が押し寄せてきました。大学進学のためあしなが育英会の奨学金を借りることになり、そこで同じ境遇の先輩たちに出会って、苦しみを抱えながらも生きていく姿を見て、少しだけ生きる希望を見出すことができました。

一方で、父を救えなかった自分への怒りや悔しさ、社会への憤りを抱え続けていました。「自分自身や遺された家族も含め、今後、また父のように誰かが追い込まれるようなことがあったとしても、自分には何もできないのではないか」という無力感が根底にありました。当時の私にとって、そんな思いを発信できる場が、自殺対策でした。

▼その他の質問項目

- ・ 主な業務内容や役割を教えてください
- ・ JSCPで働く前は、どんなことをしていましたか？
- ・ 自殺対策に関わるきっかけは？（続き）
- ・ 20年前を振り返って、今感じていることは？
- ・ 自殺対策への思いや、今後取り組みたいことは？

■記事は、[こちら](#)からお読みいただけます

※【自治体関係者の皆様へ】

本記事の内容を施策検討や庁内研修にぜひご活用ください。JSCPでは、各都道府県・政令指定都市の実情に応じた自死遺族等支援の体制構築や、実務者向け研修の企画支援を行っています。具体的な進め方については、地域連携推進部の担当者まで直接ご相談ください。

自殺対策に取り組む仲間(JSCP の新規職員)を募集しています。

※詳細は[こちら](#)をご覧ください

■YouTubeの「JSCP_広報室」チャンネルで、啓発動画や、研修動画等を順次公開中。ぜひご登録ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCNWP2O5zTuul-j8GITeKzHQ>

■Yahoo!ニュースエキスパートで、JSCPとして自殺問題・自殺対策に関する記事を配信しています（JSCP広報官・山寺が執筆）。ぜひご覧ください。

<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/yamaderakaoru>

■JSCPの公式X及び公式Facebookにて、JSCPの日々の活動の様子やメディア掲載に関する情報、全国の自治体の取り組み等についての情報発信も行っています。

・ X (旧Twitter)

日本語版：https://twitter.com/JSCP_press

英語版：https://twitter.com/JSCP_www

・ Facebook：<https://www.facebook.com/JSCP.press>

今後も、JSCPをどうぞよろしくお願いします。

配信停止をご希望の場合には、以下のサイトから、手続きをお願いいたします。

<https://jscp.or.jp/newsletter/>

--

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）

広報室 news@jscp.or.jp

※他からの引用や許可を受けた上で転載しているものを除き、本ニュースレターに掲載されている個々の情報（文章、図表、写真、イラスト等）の著作権はJSCPが保有しています。